



第 65 回

東高祭

2014.9.4→9.6

鳥東高通信

第 159 号

平成 26 年 12 月

編集・発行

鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校

印刷

日ノ丸印刷株式会社

東高祭PTA合唱に参加して

PTA副会長 木村 聖治

今年初めて東高祭PTA合唱に参加しました。曲は、Let it go(ありのまま)。今流行りの歌が、本場で聞かれるのだから、不安な気持ちのまま迎えた練習初日。尾崎直美先生に指導いただくこと一時間半。「なんとかなるさ」と思い込む、変に前向きな自分の性格を再認識しました。

本番までの練習は七回あり、参加メンバー約四十名も、楽しみながら練習に取り組み、回を重ねるごとに一体感を感じるようになりました。本番当日も、直前まで小ホールで総仕上げの練習を行い、梨花ホールステージへ。生徒の温かい声援と、大きなウェーブの中、アンコールも含め、気持ち良く歌い終えることが出来ました。

今回、合唱に参加して、子どもと同じ時間と空間を共有できたことを嬉しく思いました。子どもがいるから共有できること。子どもがいるから経験できること。子どもがいる時にしか出来ないことが沢山あります。子どもはいずれ巣立つて行くのですから、今しかチャンスはありません。皆さんも、合唱に参加して、子どもと同じ時間を共有してみませんか。

挨拶が第一歩

教頭 古田 嘉博

熊本県の元校長先生の話です。四月から赴任予定の高校は一年生がクラスしかなく、次の新入生が二クラスになれば分校化決定という状態でした。

実際に着任すると、生徒は元気がなく呼んでも返事がない。そこでこの校長先生は、「大きな声で挨拶をする」「大きな声で返事をする」を学校目標にしました。「ここは高校ですよ」と教頭先生から言われたそうです。

「朝起きたら親に挨拶をしない」「挨拶は人間関係をつくる第一歩である」「人間関係づくりは親子関係が基本である」……。そう言い続けました。

挨拶した生徒が多いクラスは表彰しました。しだいに挨拶する生徒が増え、学校に活気が出て、地域での評判も良くなりました。ほかに「朝めし食うぞー」キャンペーンなどさまざまな取り組みをした結果、次の年度の入試では、受験者が増えて二クラスになり、学校は存続できたそうです。

「大きな課題を解決するには、まず当たり前のことを続けなさい。」そう教えられたような気がします。

10月14日▼17日

第2学年 研修旅行

普通科は関西へ
理数科は屋久島へ

行って
きました!

二一四 小林 春佳

研修旅行の「研修」とは、そもそも学問知識や技能を高めるために、ある期間特別な実習をすることだ。つまり、研修旅行は勉強するための旅行といえる。しかし私はその旅行が楽しみで仕方なかった。勉強の二文字が苦手な私から見れば、研修旅行も楽しみでないはずなのに、だ。そこで私はある一つの疑問を持った。研修旅行とは私が思うように、楽しいと感じることが多いのか、それとも研修の名の通り、勉強になったと感じることが多いのか。研修旅行が終わった今、その疑問について考えてみたいと思う。

最も勉強になったと感じたことは飛鳥寺でのことだ。飛鳥寺で堂々とたたずむ飛鳥大仏に私は圧倒された。昔の金色であった大仏ではなくなっていたが、その荘厳さは当時と同じだったのだろう。特に飛鳥時代の仏像の特徴ともいわれるそのお顔は、私たちが現在よく知る仏像のお顔と違って、鼻が高く少し西洋人のようにも見えた。きっとそれも大仏の荘

厳さを引き出している要素なのだろう。そして私は、この飛鳥大仏が六〇九年に建てられた時からずっと同じ場所に居続けていると住職さんに教えられた時に、驚くとともにとてもうれしくなった。例えば聖徳太子が私の立っている場所と同じように飛鳥大仏を見ていたかもしれないと想像すると、気持ちがわくわくしてどきどきする「驚きとうれしさ」だった。教科書を見るだけでは得られない勉強ができたと思う。

楽しいと感じたことは、やはり三日目の班別自主研修が一番だった。私たちの班が最初に訪れた「おたべ本館」は特におもしろく、おたべ作りの貴重な体験だった。私たちが訪れた瞬間から、おたべ本館の従業員さんが明るく出迎えてくださり、またその従業員さんたちとの会話で終始盛り上がり続けた。会話の中でする、おたべ作りもおもしろかった。単純な作業に見えても、丁寧にやらないと味が損なわれてしまい、けっこう難しかった。しかしそれを班員で協力して作ったことで、もっと仲良くなれた気がしたと思う。楽しかったことは、まだまだたくさんあることがあったが、それらの中には勉強にな

ったこともあった。勉強になったとともに楽しいと感じる私なのだ。私はこの研修旅行で多くのことに気づいて、勉強になったと感じることも楽しむ自分に気づいた。このことから、「勉強＝楽しい」という式がたてられるのではないと思う。そしてその式を多く作れるようなものを見つけて、大学で学ぶということにつながっていくと思うのだ。私はこの旅行を楽しみ、高校生活の中でも、思い出深いものになると思う。その日々が、次の私につながり、きっかけになり得ると思う。行けて良かった。私は本当にそう思う。



飛鳥寺

眼には見えないものを
見る力

二一五 邑上 貴秋

研修旅行を終え、またいつもの学校生活に戻ることができた。今振り返ってみると、自分が研修旅行で得たものが日頃の学校生活で生きているのだと少しずつでも確実に実感している。楽しくよい思い出を作ると

いったこれまでの修学旅行とは違い、この研修旅行は自分の見の狭さを知るとともにそれを広げるきっかけとなった。普段とはまた違う学校生活外から社会に一段踏み込むことで、こういう仕事があり、どんなことをしているのかなどをよく知ることができた。それをこれからの進路選択に生かしていきたい。

研修旅行ではまず理化学研究所を訪れた。自分たちが今学んでいる理系科目が基盤となっており、試験のための勉強ととらえがちになってしまっていた勉強だが、こういう仕事に生かすために高校の勉強をしていく必要性がわかった。様々な場所を訪れたがその節々で最先端という言葉業を聞いた。数学や物理、化学のそれぞれの要素を集結させ、最先端の研究をしている姿はとても輝かしく、最先端の技術で世界の未来を創る研究をするこへの誇りも感じた。自分も誇りを持てる仕事に就きたいと思った。直接職場を訪れることにより、自分のやりたい事と仕事はどうつながるのかもわかったし、自分の知らなかった仕事もたくさんあり、視野も広がった。同時に、もっと勉強しなければならぬと思った。「一番にしか見えない世界がある。」とおっしゃられた理化学研究所の方々のような仕事をしたいと願うならば、高校生の勉強ぐらいでなければならぬ。

この研修旅行は初の関西ということもあり、たくさんの人たちが計画から研修旅行を終えるまで支えてくださった。先生方は生徒を一番に考えた行動ばかりで自分は支えられて生きているのだと改めて強く感じた。旅行会社の方が予定に遅れが出ない

よう道を変えたり他のバスと連絡を取り合ったりすることも一見自分たちにはわからないが、そういう方々に目を向けられる人でありたい。一つの見方にとらわれず、様々な角度から見ることで見えてくるものもある。

この研修旅行では勉強とはまた違うこともたくさんあった。友達との絆が深まることにつながり、早朝朝練をする部活動の多さは自分の励みにもなった。研修旅行の中心が濃かった分、あつという間違ったようにも感じられたが研修旅行で自分が得たもので自分自身実感していないものについてもこれから先、気づいていきたい。それがさらに自分を成長させる。様々な立場を理解する目線を持ち、視野を広げる。目に見えないものを見る力をこの研修旅行から学んだ。「親は、お土産ではなく研修旅行で子が成長して帰ってくることを期待している。」という先生の言葉はその通りだ。物ではないお土産を携え、そして研修旅行を支えてくださった方々への感謝の気持ちで自分が成長した姿を見せることによって示していきたい。





和歌山ほんまもん体験「藍染」



京都大学



和歌山ほんまもん体験「ドラゴンボート」

屋久島研修旅行

二一八 長谷川雄一

三年間の理数科行事の中で、一番楽しみにしていたのは屋久島研修旅行でした。そこでは、今までになく多くの経験をしました。二日間のフィールドワーク研修は、水辺と山にそれぞれ行きます。

水辺の研修は、リバーカヤックかシュノーケリングです。私はリバーカヤックを選択しました。出発地点で簡単なレクチャーを受けた後、順々にカヤックに乗りました。最初はうまく進めなかったけど、すぐにコツを掴めて真っ直ぐに進めるようになりました。途中でちよつとした滝や流れがとてもしつこい所では苦労しました。インストラクターの方は気さくな方で、休憩ではお菓子をもらったり、浅瀬で釣りや川に潜ったりしました。潜ると川の上の水がとても冷たく、深いところは温かくて驚きました。昼食は、自分たちで薪を集めて火をおこし、焼きそばと釣った魚を焼いて食べました。午後からは、さらに上流に行つて、流れが急な所にチャレンジしました。沈没する人もいましたが、まあ私はしないでくださいね。リバーカヤックは、本当に楽しかったです。シュノーケリングでは、ウミガメに遭遇して一緒に泳いだり、ウミヘビを見たり貴重な体験をしたことを聞きました。

山の研修は、白谷雲水峡に行きました。本当は白谷雲水峡か西部林道からの選択でしたが、直前に来た台風で世界遺産の西部林道へ行けなくなりました。西部林道を楽しみにし

ていたので少し残念でした。白谷雲水峡は、楽だと先輩から聞いていたましたが、想像以上にきつかったです。白谷雲水峡に入ると木の直径二m以上ある屋久杉が数多くあり、有名なくぐり杉をくぐり、小川を渡り、ものけの森と呼ばれる苔むした幻想的なところを通過しながら、太鼓岩を目指して登りました。途中インストラクターの方から屋久杉や屋久島の自然についての解説を聞き、昼食を取りながら四時間ぐらいた鼓岩に着きました。この太鼓岩は、標高が千メートルくらいあり、太鼓岩の上に立つと屋久島の山々や川を一望することができました。しかし、太鼓岩の先は何もない崖で、ハッキリ

言つて景色よりも怖かったので、それどころではありませんでした。宿舎は、貸切の民宿で、食事はとても豪華でびっくりしました。サザエのつば焼き、地元の刺身など、毎日どれも美味しかったです。二日目の夕食は、シュノーケリングの人が大きなタコを捕まえたので、刺身にしてもらい食べました。三日目の夜は、私の誕生日が近かったこともあり、夕食の後に宮脇先生がケーキを準備してくれていて、みんなに誕生日を祝ってもらえたのが嬉しかったです。

最終日にはヤクスギランドと千尋滝に行きました。ヤクスギランドでは、屋久杉と人との歴史や屋久杉のすごさを学ぶことが出来ました。千尋滝は、事前学習していたので楽しみにしていました。事前に写真などを見ていたが、実際の千尋滝は、圧倒的な迫力がすごかったです。滝が見られるところから実際に滝があるとところまでは結構距離があるのに、

それでもすごい迫力でした。

屋久島研修旅行を通して、多くの人や自然に出会い、学校で学べないものを学びました。クラスのみんなと活動し、友達の良いところを見つけてくることも出来ました。いつもと違うメンバーと研修をしたり、部屋ではしゃいだり、誕生日を祝ってもらったり、みんなの仲がさらに深まった気がします。残りの理数科生活をこの研修を通して得たものを生かして素晴らしいものにできればと考えます、そして、またいつの日にか、今回行けなかった西部林道にこのメンバーで行きたいです。



屋久島 千尋の滝



カヤック



屋久島の海にて



シュノーケリング



白谷雲水峡

人生初の東高祭

一七七 奥村 麻弥

入学当初から楽しみにしていた東高祭は、中学校の時とは比べものにならないほど規模が大きくなり、思いに残るものとなりました。先輩方は東高祭の楽しさは、実際に体験しないとわからないといっておりましたが、本当にその通りだったと思います。

私が東高祭で印象に残っているのは、体育祭のxxy脚です。全員がそろって練習したのはごくわずかな時間でしたが、その限られた時間を七組全員が集中して行いました。そのおかげで本番では、一度も止まることなく全員がゴールできました。団結力を必要とされるこの競技で一位をとれたことは本当にうれしかったです。

また、私は執行部に所属していたため、多くの準備に携わることができました。プログラムの製本作業は量がたくさんあり、とても大変な作業でしたが、大切なプロ

昨年と違う東高祭

二一七 三宅 雄太

グラムなので一枚一枚丁寧に製本することを心がけました。その分、すべて完成した後の達成感は大きく、準備に携われたことを本当にうれしく思いました。

東高祭で得たクラスの団結力や一生の思い出を大切に、日々の生活を過ごしていきたいです。

二年生として迎えた東高祭は昨年とは少し違うものになっていました。クリエーションが増えたというだけでなく、合唱やクラス演技の練習にもより早く、より本気で取り組んでいました。中でも合唱に対する意気込みがもともと変わっていたと思います。僕自身も昨年、本選に出場していたため今年もでたいと思い、練習にもまじめに取り組みました。責任者が中心になって分らないところや得意なところを教えあい、よい雰囲気の中で楽しい練習ができました。まさに、クラスが一致団結してい

感謝

三一二 岡村 拓斗

る感じだったと思います。その甲斐もあって予選一位をとることができました。それに向けて皆で練習してきたので予選一位がとれた時は心からうれしく思い、本選に向けてまたがんばろうという気持ちになりました。その気持ちのまま練習を重ね本選にのぞきました。昨年と違って意外に緊張もせず、楽しく歌えました。

結果は二位でそれを聞いたときは予選一位をはるかに上回るうれしさでした。先輩や他の人たちが「お前らが一位だと思った。」といわれて喜びが増しました。昨年に比べて遙かに楽しい東高祭の幕開けでした。来年は三年生として最後の東高祭を迎えるので今年以上に全力で楽しみたいと思います。

第六十五回東高祭は、一日目、二日目と例年以上の盛り上がりを見せ、三年ぶりにグラウンドで開催された三日目の体育祭も、大

な熱気に包まれ、順調に進行していました。こまでは完璧。あとは、夕べの集いを全力で楽しむだけだ、と多くの人が思っていたはずですが、しかし、最終競技の終了から閉会式が始まるまでのわずかな時間の間に、グラウンドの景色は一変してしまいました。呆然としたのは僕だけではなかったはず。結果、三日間の締めくくりとなるはずだった夕べの集いは九月九日に延期となりました。

こうして迎えた異例の東高祭四日目。休日をはさんだことで盛り上がりには欠けるのでは、と不安もありましたが、実行委員の努力もあって締めくくりにあざわしい最高の夕べの集いになりました。改めて、東高祭って素晴らしいものだ、と強く感じ、大きな感動と達成感を得ることができました。

僕は、東高の歴史に残るであろう今年度の東高祭に、生徒会長として携わることができ、つくづく幸せ者だな、と思っています。多くの人に応援してもらい、そして支えてもらいました。特に、執行部のみんなには感謝してもしきれ

ません。みんなと一緒に活動した日々は大切な思い出です。僕たち東高生は、あのようなハプニングにもめげず、東高祭を最後の最後まで楽しみ、そして盛り上がりました。あのパワーがあれば、これからの東高をもっともっと良くしていけるはずです。

東高の素晴らしい未来を、自分たちの手で！

第65回 東高祭



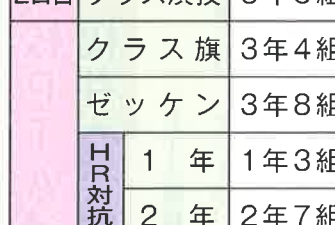
第六十五回東高祭

生徒会主任 森本 俊爾

今年も東高生たちの汗と熱い思いのぎゅっしり詰まった学校祭が実施されました。例年より夏休み明けの準備期間が短い中、生徒たちは大変頑張りました。ハチマキやゼッケンをはじめとするクラス発表、各部による演技・発表・クラブ展示などはこの準備があつてのことだと思っています。

初日の最初は書道パフォーマンス。堂々たる演技で観客を魅了し、次の課題研究発表ではアカデミックな発表に感心させられました。和太鼓と津軽三味線のコラボ「あべやxひむかし」による外部公演では生徒や先生がステージに上がるなど、出演者と一緒になって観客を沸かせました。

午後は邦楽・吹奏楽部演奏、演劇部公演と盛り上がり、最後に合唱コンクール本選では、予選を勝ち上がった素晴らしい合唱に惜しめない拍手が送られました。



平成26年度 第65回東高祭各種成績発表

	種 目	1 位	2 位	3 位
1日目	合唱コンクール	3年7組	2年7組	3年8組
2日目	クラス演技	3年5組	2年7組	3年6組
3日目	ク ラ ス 旗	3年4組	1年3組	3年6組
	ゼ ッ ケ ン	3年8組	3年7組	2年8組
	H R 対 抗 リ レ ー	1 年	1年3組	1年7組
		2 年	2年7組	2年1組
		3 年	3年1組	3年2組
	体育祭H R 総合	1 年	1年3組	1年6組
		2 年	2年1組	2年3組
		3 年	3年1組	3年3組

PTA
健康・生活部主催
研修会

子どもの支援への一つとして、
食事と睡眠から考えてみよう

PTA健康・生活部長 西村 聖子

健康・生活部では、十月二十二日に日々勉強や部活をがんばっている子どもに、保護者としてどのような支援ができるのかを共に学び合うことを目的とした研修会を開催しました。

講師に、本校保護者でもあり、保健師として活躍されている大谷保子さんをお迎えし、「子どもへの支援の一つとして、食事と睡眠から考えてみよう」をテーマとした講話をしていただきました。

・どうして朝ごはんを食べないといけないのか？

・バランスのよい食事とは？

・休養と睡眠（心身の疲労回復のために重要）

・元気な体と心を育てる六つの力、子どもへの支援として親ができることは？

など、身近で具体的なお話で、考えさせられることがたくさんありました。大変参考になりました。



講師の大谷保子さん

講話の後、協議テーマ「親が子どもにできることは何だろうか？」について、五つのグループに分かれてグループワークを行いました。まず最初に、テーマについて各自が思い付いたことを付箋に書き、その後グループで意見を出し合いました。どのグループも活発な話し合いになり、様々な意見交換がなされました。最後に、各グループで出た意見を報告してグループワークを終了しました。

・ジュースの糖分が多いことがよくわかったので、できるだけお茶にしたい。

・親が子どもに対してできることについて、いろいろな意見が参考になった。子どもを褒めたい。

・子どもと会話して、褒めることを実践していきたい。

・大谷先生がハードルを上げすぎず、まず自分にできることから実践と言われたのがよかった。



グループワークの様子

・研修会終了後、参加者のみなさんにアンケートを記入していただき、ほぼ全員の方から研修会に参加して良かったと回答をいただきました。感想・メッセージを一部紹介します。

・グループワークで自分以外の保護者の方々の意見を聞くことができて良かった。

・いずれ親元を離れていく子に何をすればいいかを考えたい。

・グループワークでの皆さんの意見が参考になった。

・バランスの良い食事と睡眠をしっかりとするの大切さがわかった。

・勉強ができる環境を整えること。子どもを励ますことが大切。

・子どもといる時間を大切にして、子どもと会話していきたい。

・子どもが自立できるように食事の大切さや、料理の仕方を教えていきたい。

・菓子パンやお菓子のカロリー量を考えて少なくしたい。

今回の研修会では、「子どもたちが健康的な毎を送るためには」「子どもたちが自立して生活を送るためには」「親として何がしてやれるのかを考えるいい機会となり、いろいろなヒントをいただくことができました。難しく考えず、できることから実践していただけたらと思います。お忙しい中ご参加いただきました保護者の皆様、本当にありがとうございます。

今後も、健康・生活部では、子どもたちが健康で楽しい高校生活を送れるよう、サポートしていきたいと思っています。PTAの皆様の協力をお願いいたします。

第64回
全国高等学校PTA連合会大会
福井大会に参加して

PTA研修部 稲村 潤一

夏の甲子園の北陸勢の活躍と同じく、全国高P連福井大会は熱かった。八月二十二日からサンドーム

ていくか、を改めて考えさせられました。

福井を中心に開催された福井大会に、鳥取東高として宇田川PTA会長、藤原校長、木下先生と共に四名で参加いたしました。（うーん、本校の参加者少なくて寂しい。）大会初日こそ一時雨が激しく降ったものの、それ以外二日間の日程は順調に進行。

二日目、熱い福井大会は武生商業高校吹奏楽部のスイングオーケストラと福井商業高校チアリーディング部のチアダンスで盛り上がりは最高潮に。出演者も参加されたPTAも一体となった素晴らしいアトラクションでした。（まさにドーパミン全開の演奏と演技）

初日基調講演では、当初予定の尾木ママ、尾木直樹氏から急遽バトンタッチされた茂木パパこと茂木健一氏による「今求められる幸福脳」と題した講演があり、脳が幸福と感じるにはドーパミンの分泌が重要で、困難なことにチャレンジするほどドーパミンが分泌され、それにより一層幸福感を感じる事が出来るとのお話でした。

全国や中四国の大会に参加させていただくと、本当に開催地の生徒・PTAのパワーに圧倒されます。多くの方にPTA活動に参加いただき、三年間の間に是非この感動を体験していただきたいと思っています。



小中生の道徳、特別教科へ

山脈十二回生 山崎 勝彦

6月以降の各種大会等結果

全国大会

- 全国高等学校総合体育大会
・男子バスケットボール 初戦敗退
○NHK杯全国高校放送コンテスト
・アナウンス部門 山崎 理世 予選通過ならず
・朗読部門 清末万里子 予選通過ならず
○全国高等学校総合文化祭
・囲碁の部 大田原和輝 3勝3敗 48名中29位
○第38回(文部科学大臣杯)全国高校囲碁選手権大会全国大会
・大田原和輝 ベスト16
○全国高校生書道パフォーマンス甲子園
・女子15名 準優勝
○第48回高野山読書大会
・小畑 梨奈 金剛峰寺賞
・藤原江梨花 管長賞
・門脇由美子 毎日新聞社賞
・池田 有希・山本 奈緒 南山賞
・石原 敬子・鈴木 陽花・岩永 諒子 高野山書道協会賞
・林・最上・松村・橋本・安治 推薦
○第43回サンデー毎日学生書道コンクール
・鈴木 陽花 毎日新聞社賞



新人戦

- 《陸上競技》
○第57回鳥取県高等学校新人陸上競技大会
・男子やり投 細川 亮 第3位 中国新人出場
・女子1500m 北脇 亮子 第2位 中国新人出場
・女子やり投 安道 萌奈 第2位 中国新人出場
○第23回中国高等学校新人陸上競技対校選手権大会
・男子やり投 細川 亮 第9位
・女子1500m 北脇 亮子 第3位
・女子やり投 安道 萌奈 第13位
《サッカー》
○第49回鳥取県高校サッカー新人戦兼第7回中国高等学校サッカー新人大大会鳥取県予選
・男子 ベスト8
・女子 準優勝
《卓球》
○鳥取県高等学校卓球新人大大会
・男子団体 3位 選抜大会出場
○第51回鳥取県高等学校卓球新人戦大会
・男子団体 ベスト4 全国選抜県予選出場決定
・女子団体 ベスト6 全国選抜県予選出場決定
・男子個人 八木 快人 ベスト8 全国選抜県予選出場決定
・中島 健輔・津村 陸斗 ベスト16 全国選抜県予選出場決定
《テニス》
○鳥取県高等学校テニス新人戦
・男子シングルス(西垣) 中国大会出場
《ボート》
○高等学校新人戦兼全国選抜ボート大会
・男子舵手付フォドルブル(田住・岸本・井上・大西・上田) 第3位
・男子ダブルスカル(麻木・國富) 第4位
・男子シングルスカル(近藤) 第5位
・女子舵手付フォドルブル(岸本・上村・徳永・山本・横田) 第3位
・女子ダブルスカル(尾田・井上) 第2位
《弓道》
○鳥取県高等学校弓道新人大大会兼中国新人大大会県予選
・男子団体Aチーム(福西・西尾・金谷) 準優勝 中国大会出場
・男子個人 福西 寛也 第5位
・女子個人 浅田 華純 第12位
《柔道》
○鳥取県高等学校柔道新人大大会
・男子団体(網谷・馬場・渡辺・西尾・菅生・奥山) 第5位 中国大会出場
・男子団体(木下・徳田・高橋・中江) 第3位 中国大会出場
《水泳》
○平成26年度鳥取県高等学校新人水泳競技大会
・男子団体 総合成績 優勝
400mリレー 第2位
800mリレー 第1位
400mメドレーリレー 第1位
・男子個人 リーグ・ディミル 200m個人メドレー第6位、200m自由形第5位
上紙 啓 100m平泳ぎ第4位、200m平泳ぎ第1位
田住 駿介 100mバタフライ第4位、200mバタフライ第3位
荒井 祥旭 400m自由形第6位、400m個人メドレー第3位
猪山 雅也 200m個人メドレー第4位、400m個人メドレー第2位
村上 怜 400m自由形第1位、1500m自由形第1位
青木 勇斗 50m自由形第1位、100m自由形第4位
小林尚太郎 100m平泳ぎ第2位、200m平泳ぎ第4位
山口 遼也 100mバタフライ第3位、200mバタフライ第2位
木原 悠太 100m背泳ぎ第5位、200m背泳ぎ第4位
・女子団体 総合成績 優勝
400mリレー 第1位
400mメドレーリレー 第2位
・女子個人 瀧山 美樹 100m背泳ぎ第3位、200m背泳ぎ第3位
中尾 千華 100m自由形第4位、200m自由形第2位
吉村 真子 100mバタフライ第1位、200mバタフライ第1位
土肥 瑞穂 100m平泳ぎ第2位、200m平泳ぎ第2位
吉田 百穂 100m自由形第2位、200m自由形第1位
男女 個人・団体ともに全員中国大会に出場

その他の大会

- 《陸上競技》
○第67回鳥取県陸上競技選手権大会兼第68回国体選手権大会
・男子砲丸投 米井 龍 第2位 中国五県出場
・男子やり投 細川 亮 第5位
・女子4×400mR 第8位
・女子800m 北脇 亮子 第3位 中国五県出場
・女子1500m 北脇 亮子 第6位 中国五県出場
・女子1500m 言水日向子 第7位 中国五県出場
・女子5000m 川上 真奈 第6位
・女子5000m 前田 春奈 第8位 中国五県出場
・女子砲丸投 長石 莉奈 第4位
・女子やり投 三浦 菜穂 第5位 中国五県出場
○第68回中国五県陸上競技対校選手権大会
・女子1500m 北脇 亮子 第1位
・女子1500m 言水日向子 第5位
・女子5000m 前田 春奈 第8位
○平成26年度鳥取県高校総合体育大会
・駅伝競走の部 男子 第8位
女子 第4位
○第28回中国高等学校女子駅伝競走大会
・第14位 1時間16分35秒
《バスケットボール》
○第58回中国高等学校バスケットボール選手権大会鳥取県予選会
・女子 第3位 中国大会出場
優良選手賞 俵 麗香
○第45回全国高等学校バスケットボール選抜大会鳥取県予選会
・男子 優勝 全国大会出場
優秀選手賞 磯尾 和也・井上 航
・女子 第3位
《バレーボール》
○第67回全日本バレーボール高校選手権大会鳥取県大会
・男子 ベスト8
・女子 準優勝
○中国高校選手権大会
・男子 初戦敗退
・女子 ベスト8
《サッカー》
○第23回全日本高等学校女子サッカー選手権大会中国地域予選会
・初戦敗退
○第93回全国高校サッカー選手権大会鳥取県大会
・男子 第3位
《ボート》
○第58回中国高校ボート選手権大会
・男子舵手付フォドルブル(池田・下田・上田・大西・井上) 予選第3位
・男子ダブルスカル(中山・岸) 準決勝第5位
・女子舵手付フォドルブル(内田・長岡・杉森・岡・福田) 決勝第4位
《弓道》
○第22回中国高等学校弓道新人大大会
・女子個人 浅田 華純 第8位
《柔道》
○平成26年度中国高等学校柔道大会鳥取県予選会
・男子81kg級 網谷 李昌 第3位 中国大会出場
・男子90kg級 馬場隆之介 第3位 中国大会出場
・女子48kg級 中江 衣月 第4位
・女子57kg級 香川日菜子 第3位 中国大会出場
・女子57kg級 幸山なつみ 第4位
《水泳》
○第62回中国高等学校選手権水泳競技大会
・女子団体 女子400mメドレーリレー・フリーリレー(井川・志和・吉村・茂上) 第7位
・女子個人 吉村 真子 100mバタフライ第6位、個人メドレー第7位
井川 麗美 800m自由形第7位
志和 陽香 400m個人メドレー第4位、200m個人メドレー第6位
《美術》
○平成26年度第17回鳥取県高等学校デッサンコンクール
・前田凛々子 優秀賞(第2位相当)
《囲碁》
○第38回全国高等学校総合文化祭囲碁部門鳥取県大会
・個人戦 大田原和輝 優勝 第38回全国高等学校総合文化祭出場
《演劇》
○鳥取県高等学校総合文化祭第42回演劇発表会 優秀賞
《放送》
○平成26年度鳥取県高等学校総合文化祭放送部門
・アナウンス部門 岸本 真央 優秀賞
[平成27年度全国高等学校総合文化祭(滋賀大会)出場権獲得]
・朗読部門 山本 美穂 奨励賞
《吹奏楽》
○鳥取県高等学校総合音楽祭
・フルート独奏 東上 彩耶 優秀賞
《邦楽》
○鳥取県高等学校総合音楽祭
・日本音楽の部 優秀賞
《将棋》
○近畿高等学校総合文化祭
・将棋部門 男子個人戦 B級 山根 朋也 出場





挑戦

—— 藤井 雅仁

東高に入学した頃の頃、部活動見学で魅力を感じ、僕はバドミントン部に入学しました。東高に入学することが全くありませんでした。だから上達するまでの道のりがとても厳しいものであることを十分に理解したうえで入学したつもりでした。

しかし、練習内容が想像以上に厳しく、自分の考えの甘さを痛感しました。それに加え、今年入学した男子部員の中で、未経験者は僕だけだったので、周りの技術の差にも苦しみました。それらの思いが積み重なり、部活をやめようとして考えた時もありました。

それでも自分なりの努力を重ね、初めは苦でしかなかった練習が大分こなせるようになると、さらに技術を高めたいという意欲も高まりました。まだゴールも見えない通過点に僕はいますが、この時点で人生において重要なことを学んだと実感しています。

新しいことへの挑戦は、時に辛さや厳しさ、さらには失敗するかもしれないという恐れを伴います。しかし、そこで逃げてはいけないのだと部活を通して学びました。挑戦すれば必ず成功するとは限りませんが、挑戦しないことには成功ありません。だから、今後も僕は様々なことに挑戦していくつもりです。

東高祭・PTA合唱に 参加して

一年 P 平井 美和

♪光 浴びながら 歩き出そう
少しも寒くないわー♪
歌が終わったと同時に、会場からは割れんばかりの拍手と喝采...

七月、七月目を迎える東高PTA合唱の練習が始まりました。指揮者の尾崎直美先生の御指導のもと、先生・OB・OG・保護者、総勢四十数名が集結いたしました。今年の曲は、「アナと雪の女王」でお馴染みの「Let It Go」(ありのままで)です。聞きなれた曲でしたので「良かった」と喜んだのも束の間、メロディ・ハーモニー・リズムの取り方など、難易度「高」の曲に最初は合わせるのも四苦八苦の練習となりましたが、練習を重ねるたびに徐々に息も合い、タイミングも合っていました。

いよいよ当日、リハーサルを終え、梨花ホールへ。舞台袖で、かなり緊張していた私は、OGの皆さんに「大丈夫、楽しもう!」と励まされ、いざステージへ。生徒の皆さんの歓声とステキな笑顔で緊張も吹飛び、ピアノとドラムの伴奏と尾崎先生の指揮に導かれ、気持ちよく歌うことができました。

そして冒頭のラストシーン...「ありのままで 行こう!!」松本先生の掛け声とともに、会場が一体となった瞬間でした。

尾崎先生をはじめ、OB・OGの皆様、御指導、ご協力ありがとうございました。在校生の保護者の皆様、来年の合唱で、歌い終わったあとの達成感を一緒に味わいましょう!!

感謝すること

二二 中尾 千華

私は水泳部に入っていて、今年の九月に新人戦が行われました。代々、鳥東高が男女総合優勝を果たしてい

る大会である中、今年は特に女子の優勝が厳しいかもしれないと顧問の先生方に言われ続けました。伝統を止めてしまってもいいかなと怖く、絶対優勝するぞという気持ちが混ざった日々が続きました。そんな中行われたミーティングで、「フリリレーの泳順を決める時に、「千華が女子部長だね、アンカーは千華だ」と顧問の先生、周りの部員に言われ、さらに大きなプレッシャーがのしかかり、私のせいで負けたらどうしよう、など様々なことを思いました。大会前日は、不安が大きすぎて弱気になりがちだったけど、周りの人達からの応援や、「勝ちたい気持ち強い方が勝つだけ、大丈夫だ」という顧問の先生の言葉を思い出すと、強気だと思いました。

九月二十三日、男子十人、女子五人、マネージャー四人、顧問の先生方とで新人戦に臨みました。プログラム一番のフリリレーでは、前の三人の頑張りで私達が二位の高校より三メートルほど勝っていました。アンカーである私の番になり、必死に頑張りました。そして最後まで逃げ切り、一位になったときは、リレーメンバー、今まで一緒に頑張ってきた部員に感謝の気持ちしかありませんでした。その後、個人競技も男女共に戦い抜き、私達は男女総合優勝を果たすことができました。これからの学校生活で、弱気になることがあれば、この新人戦から学んだ強い気持ちを思い出して頑張りたいです。応援し、支えてくださった周りの方々に本当に感謝します。

書道部フオーマンス 甲子園を通して

二年 P K・H

「準優勝 鳥東東高等学校」
八月三日、愛媛県での全国書道フオーマンス甲子園の結果発表でそう呼ばれた瞬間、子どもたちも保護者も喜びにあふれうれし涙が止まりませんでした。

表彰台で涙ながら銀メダルを首にかけてもらっている娘を見て思い出しました。昨春、入学してから毎日「書道部に入ってよかった!」と言っては目を輝かせて延々と部活の話をしていました。昨年の全国大会で審査委員長特別賞という素晴らしい賞をいただいたもののそれでも悔しくて応援席で目を真っ赤にして泣いていた姿を。その後、帰りのバスから「来年がんばる!書道部に入つてよかった!」とメールしてきたことを。

絆がもつ力

三一 松井 宏喜

僕たち三年一組は体育祭総合優勝を成し遂げました。その原動力となったのは、「絆」です。しかし、最初から順風満帆というわけではありませんでした。合唱練習では、各個人は一生懸命やっているのですが、とてもまとまっているとはいえないような様子でしたし、とても満足のいく結果ではありませんでした。

そんな時、担任の先生は「おやっけ!」という、ごく普通の言葉ではあるけれど、僕たちを優しく支えてくれる言葉をかけてくれました。僕たちを信じしてくれる先生に優勝をプレゼントすべく僕たちは団結し、一丸となって活動しました。そして絆がうまれました。

人は、苦悩を糧とし成長する。前期の生徒会長がよく口にしていたように、人は苦しんだり、悩んだりとい

う様々な経験を通して大きく成長します。僕はそこに絆が必要ではないかと思っています。仲間との絆、先生との絆...人は一人では強い生き物ではないからです。

子どもとの離れ方

三年 P 長岡 祥江

「子どもは、捨ててをしないといけんよ。」
亡くなった祖母は、三人の娘を連れて帰省するたび、こう私に言っていました。

まだ一番下の娘(本校の生徒)がよちよち歩きの可愛い盛りになぜそんな事を言うのか、当時の私はよく理解できないでいました。

しかし年月が経つにつれて、段々とその意味が分かってきました。祖母は、

「子どもと上手に離れるのはとても難しいけれど、一番よくないのは、大切な時期に過保護にする事。大人になれないよ。」

と常々言っていました。思えば、入園した時から子どもとの別れは始まっていたのです。今頃どうしているだろう、泣いていないか等心配は尽きません。仕事に忙しくなると、もつと関わってあげないと母親として失格ではないかと不安がよぎります。そして進路を決定する大切なこの時期、親として苦悩や悲しい思いをさせたくない等様々な思いに揺れ動いているが祖母の言葉です。子ども自身が自分の頭で考えて決定していく為には、時には子どもを捨てる覚悟で突き放すことも必要かもしれません。祖母の言葉を胸に、子どもを信じきろうと自分に言い聞かせながら過ごす毎日です。